

発言概要	カテゴリ
<p>ジャパンサーチ（国の分野横断統合ポータル）に、都立図書館において今まで作成したデータが登録できるようにすると、そこを経由してのアクセスが増えるのではないかと。ジャパンサーチ及び内閣府の動きは要注目。</p>	<p>デジタルアーカイブの活用</p>
<p>色々な自治体がデジタルアーカイブを公開する際、地域の歴史、文化の資料を公開することにより郷土愛が醸成され、観光客の集客に役立ちますというようなプレスリリースを出す、そうになっている事例をほぼ見たことがない。情報が届いていないのだと思う。</p>	<p>・デジタルアーカイブの活用 ・広報</p>
<p>例えば都立図書館のデジタルアーカイブを活用したワークショップを実施すると、「デジタルアーカイブを見ていると、こんな面白いものが見つかる」とSNSで拡散していくと思う。情報を届けるためのもう一工夫は、大掛かりなものではなく、都立図書館の既存のコンテンツとイベントとの組み合わせで相乗効果になるのではないかと。</p>	<p>・デジタルアーカイブの活用 ・イベント ・広報</p>
<p>「T O K Y Oアーカイブ」には地図表示（地図上のポイントをクリックすると、その地点に関連する資料が表示される）の機能がある。それをGPSつきのアプリ等にして、「デジタルアーカイブを使ったまち歩き」みたいなことができると、昔の写真を見たいお年を召した方も参加しやすいのではないかと。</p>	<p>・デジタルアーカイブの活用 ・イベント</p>
<p>オープンデータは、やるのであれば、テーマを設けて「こういうのを作ってね」というようなことをハッカソンみたいな感じでやると面白い。</p>	<p>・デジタルアーカイブの活用 ・イベント</p>
<p>ニューヨークのパブリックライブラリーのホームページを見ると、トップページは何かワクワクするようなフェイスになっている。外部の方を活用し、ビジュアルに情報を整理して、届きやすく、興味を持ってもらえやすい「人に届くデザイン」を考える必要がある。</p>	<p>人に届くデザイン</p>
<p>Webもリアルも含めて、都立が持つ情報資源をもっと利用者に届けられるようなもの（インフォグラフィック）を考える必要がある。</p>	<p>人に届くデザイン</p>
<p>来館したことがない方に来館してもらおうのが「集客」、既に利用している方により良いサービスを提供するのが「接客」と考えると、集客と接客で方策が異なるのではないかと。「図書館の利用度」というところで1回切らないと、分散すると思う。 外国人へのサービスにしても、新しく外国人に来てもらいたいのか、来た外国人に不便な思いをさせないようにしたいのか、どちらなのか。</p>	<p>・「集客」と「接客」 ・外国人向けサービス</p>
<p>訪日外国人と在住外国人の両方に細やかなサービスができればベストだとは思いますが、その前に、1個ずつどちらを充実させていきたい等の目標が具体的にあり考えやすい。</p>	<p>外国人向けサービス</p>
<p>資料貸出をしていないということを見ると、一番都立図書館を使ってもらおう強みを生かせるのは来館していただくことではないかと思う。港区在住、在勤の人たちに都立図書館の強みをもっとアピールし、利用してもらえそうなことを1番先にやれば良いのではないかと。</p>	<p>広報</p>

<p>「VoiceTra」という、国立研究開発法人情報通信研究機構が色々な会社の技術を寄せ集めて作成している自動翻訳アプリがある。これを活用して、実証的なことをやることも考えられるのではないか。</p>	外国人向けサービス
<p>外国語資料のデータを都内公共図書館で一括検索できないか。例えばMARCを都内の公共図書館で共有したり、ISBNで全部書誌管理を行っている「カーリル」を活用するなど。</p>	外国語に関するサービス
<p>県立図書館が負担をして、オンラインDBを県内の市町村の図書館に使えるようにしたという話を聞いた。電子書籍のコンソーシアムはまだ遠い先だとしても、例えば都立図書館で、島しょや町村など小規模な自治体へのオンラインDBの導入を働きかける可能性は考えられないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・区市町村立図書館への支援 ・来館が困難な方への支援
<p>来館、非来館というのがすごく区別されているようだが、外国人なども含めて、実際にいる方なのか、利用されている方なのか、これから利用する人になっていくのか、そういう人が使ってもらえるようになるのという切り口もあると思うので、そういった観点でまとめていただくとありがたい。</p>	利用者と未利用者
<p>民間企業のビジネスの中で、現在都立図書館で実施しているサービスに近いものを参考に取り入れると、改善につながるのではないか。例えばレファレンスを例にとると、問い合わせがチャットになっていて、クエスチョンマークを押すと、LINEの画面みたいなのがパソコンの右側に出てきて、その担当の人と会話するみたいな感じで相談できる企業もある。</p>	レファレンスサービス
<p>スカイプ等を使って、フェイスタイムとかでやりとりできたら、来館せずに利用できるサービスにはなるのではないか。若い人はスマホでほとんど何でもやってしまうので、そこに少し対応できると、より利用者が増えるのではないか。</p>	レファレンスサービス
<p>こちらから働きかけたり、何か宣伝をして来館してもらうのは結構大変。それが本当に伝えたい人に届くかというものの課題。そうすると、やっぱり来た人、すなわち利用者の輪が広がっていく方向で考えないと、なかなか利用者は増えていかない。それにプラスしてイベントをやつて、イベント連動で図書館のことがもっと伝わると良い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・PR ・イベント
<p>入館してもらって、「何かすごい楽しい」と思ってもらう、そこからしか始まっていかないのかなと感じる。そうすると、この建物の最初の入口の問題がすごく大きい。何とか変えられないか。カードをもらって、まず、すごい狭い入り口のところから、図書館に入っていくという、あの感じがちょっと多分、今どきの図書館にはなかなかない感じかなと。もうちょっとここで襟を正して、静かにして入りましょうというのが、もうあからさまにあそこで表現されているので。</p>	エントランスの雰囲気・活用
<p>カフェとかもあるが、どうしてもそこは図書館の「外」というイメージ。BDS（ブックディテクションシステム、主に図書館で取り入れられているセキュリティシステム）をくぐった途端に、もう「ここではこういう振る舞い」というものができてしまうと思う。BDSの位置はもう少し奥にならないか。</p>	エントランスの雰囲気・活用
<p>1階に展示があるが、あの辺ぐらいまでは手続しないで入館できると良いのではないか。入って右のほうは見ている人とかもなくて、寂しい感じ。もうちょっとフランクに入れると、雰囲気ももうちょっと明るくなるのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エントランスの雰囲気・活用 ・展示

外からもし展示している様子が見えたら、つい入るといことはあるかもしれない。	・エントランスの雰囲気・活用 ・展示
今、4階とか5階に結構展示のスペースがあるが、知っている人ではないとなかなか行かないし、何を展示しているかも、入館したときには全然わからなくて、行って初めて「こんながあるんだ」と知る感じ。留学情報コーナーも5階にあるが、多分1階にあると、若い人が来たときに「こんな情報もあるんだ」と思うのではないか。館内のコーナーや展示に気がつくのに時間がかかる。	展示
敷居の高さがぐっと下りると、今まで利用していなかった方もたくさん来てくれる。そうすると、レファレンスの利用や研究など、利用者と一緒に利用できる場所みたいに膨らんでいくのではないかと。そうでないとなかなか利用者数は増えていかないし、ちょっともったいない。200万冊の資料を、もっとたくさんの方が利用できるようになるには、エントランスあたりのつくりをどうにかする必要がある。1階の入り口とその辺の雰囲気だけでも何かすると、随分変わるのでは。	・敷居の高さ ・エントランスの雰囲気・活用
お金をかけられないのであれば、それを逆手にとって何かやっても良いのでは。トンネルのようなものをちょっと演出するなど。	エントランスの雰囲気・活用
キッズコーナー、カフェの設置、あと、色々な席を増やすなど、たくさんの試みをやっているが、1つ1つのクオリティがもうちょっと利用者側に寄った感じにしないと、「やってみました」以上の膨らみを持たない感じになるのではないかと。	利用環境
カフェであれば、単に飲食物を提供するだけではなくて、館と連携してイベントや展示もやってくれるところを提案型で募集をすとか。あと椅子を変えるにしても、「人の居心地」の専門家にアドバイスを受けて、何倍もよくなるみたいな椅子を入れるとか。そこは結構、図書館利用者にとってはすごく大事なところで、「ここは居心地いいな」と思ったら、それだけで来てくれると思う。	利用環境
現在、カフェについて都立図書館のフェイスブックで発信しているが、速報性などを考えるとカフェ側が発信してもいいと思う。	利用環境